

施設リニューアル完了

混廃の選別機でR率向上

大型破砕機564tを導入

湖南リサイクルセンター

INKANKER

中間処理後の処分先

の湖南リサイクルセンター(滋賀県湖南市、西村忠浩社長、07

49・77・882

8)は、混合廃棄物を中心とした受け入れを強化するため、処理能力を今までの2・8倍

に高めた破砕機と処理

機を導入、施設をリニューアルした。約4億円

の投資で県内最大クラスの施設となり、廃棄物ごとに建屋を分けてリサイクルフローを確

立した。

破砕・選別・圧縮の中

でセメント工場の際

やRPFの原料になる

ものを専門会社と契約

して運搬する。焼却処

理が必要なのは、熱

回収ができる施設に運

び込み、路盤材やセメ

ント原料としても利用

している。

許可品目は、廃プラ

類、木くず、繊維くず、

がれき類、紙くず、ガ

ラスくず、コンクリー

トくず及び陶磁器く

ず、金属くず、ゴムく

ずの種類。



大型選別機のバリオセバレーター

製で564・7トン/日機と比べて2・8倍に

の処理能力を持つ。旧

機と比べて2・8倍に

の処理能力を持つ。旧

機と比べて2・8倍に

の処理能力を持つ。旧

機と比べて2・8倍に

の処理能力を持つ。旧

機と比べて2・8倍に

の処理能力を持つ。旧

機と比べて2・8倍に

の処理能力を持つ。旧

機と比べて2・8倍に

の処理能力を持つ。旧

機と比べて2・8倍に

の処理能力を持つ。旧

機と比べて2・8倍に

の処理能力を持つ。旧

機と比べて2・8倍に

の処理能力を持つ。旧

機と比べて2・8倍に

の処理能力を持つ。旧

機と比べて2・8倍に

の処理能力を持つ。旧

機と比べて2・8倍に

の処理能力を持つ。旧

機と比べて2・8倍に

の処理能力を持つ。旧



破砕機タイタンは旧機の2.8倍

建設系の混廃も高精度で選別できる。傾斜した振動エレメントで軽量物や細粒物、重量物に分ける。風力をつまぐ使った装置として精度を高めた。

破砕・選別した後に別棟にある圧縮施設に運ばれる。圧縮前に破砕処理をすることで、は向上する見込み。

上して、処理困難物の廃棄物の処理にも対応する。

大型選別機のバリオ

セバレーターは、御池

鐵工所製で、混廃を傾

斜角度で振動、風力を

使って選別する装置。

埋立や焼却しなかつ

た混廃を右戻の代善燃

料やセメント原料とし

て再生できる状態に

持って行く。バリオセ

バレーターの設置によ

って、リサイクル率の

向上は確実に見込まれ

る。選別が困難だった